

現代中東地域研究 国立民族学博物館拠点 2016 年度活動報告

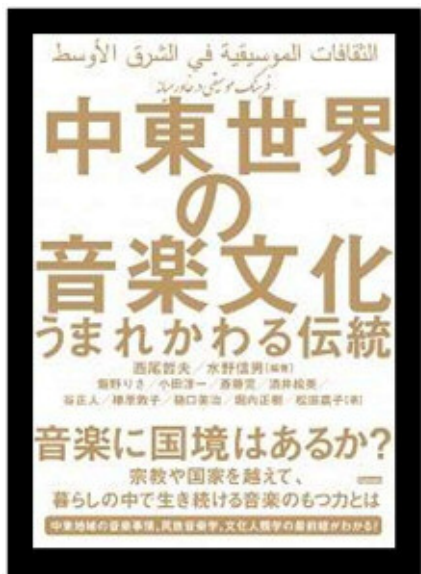
2016 年度活動の概要

拠点研究テーマ

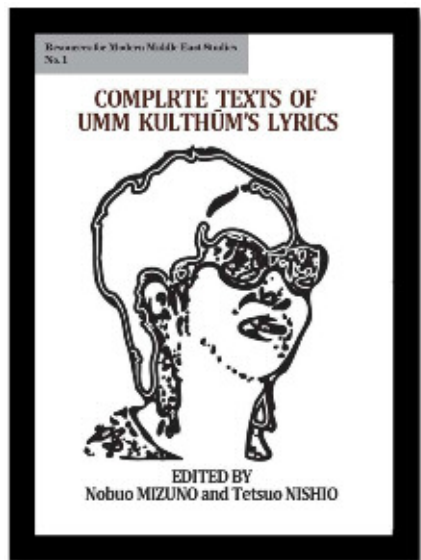
中東地域における文化資源の現代的変容と個人空間の再世界化

拠点代表：西尾哲夫（国立民族学博物館・副館長）

個から世界への視点による他者観にかかる研究班と、社会的心性としての世界観にかかる研究班の連携によって、中東地域の人びとの世界の構築方法に関する研究を開始した。また本年度においては、現代中東地域研究のプロジェクト内の機関との連携を図るために共催の研究会・ワークショップを実施した。またフランス社会科学高等研究（École des hautes études en sciences sociales）をはじめ国外の研究機関、また現代中東地域研究の他拠点および国内外の他の研究資金で研究を実施する研究グループとも連携を図り、広域にわたる研究協力体制の構築を進めた。



『中東世界の音楽—うまれかわる伝統』



Complete Texts of Umm Kulthūm's Lyrics



国際シンポジウム “La Culture Populaire au Moyen-Orient: Approches Franco-Japonaises Croisées”の様子

研究活動

1) 成果刊行物

西尾哲夫・水野信男編『中東世界の音楽—うまれかわる伝統』、スタイルノート、2016年9月。

平成28年3月に開催した現代中東地域研究プロジェクト・プレシンポジウムの成果も盛り込んだ中東の音楽文化に関する論文集を刊行した。

Nobuo MIZUNO and Tetsuo NISHIO eds., 2017. *Complete Texts of Umm Kulthūm's Lyrics*. Osaka: Center for Modern Middle East Studies at the National Museum of Ethnology.

「中東民衆文化研究資料 (Resources for Modern Middle East Studies)」シリーズの第1巻として、東洋の星と謳われたエジプト人女性歌手ウム・クルスムについて、中東地域の民衆文化について音楽的側面からの国内外の研究を推進するため、世界で初めて全楽曲を含む英訳歌詞資料集を出版した。

2) 国際シンポジウム、国際ワークショップ、研究会

国際シンポジウム “La Culture Populaire au Moyen-Orient: Approches Franco-Japonaises Croisées” (2017年3月27・28日、於：パリ・EHESS 開催)

国立民族学博物館共同研究事業「個—世界論——中東から広がる移動と遭遇のダイナミズム」(代表・齋藤剛)と連携し、現代中東の民衆文化に焦点をあて、個から世界への他者観が社会的心性としての世界観との間でどのような相互作用と相互変容を迎えてきたのかをテーマに、フランス社会科学高等研究院との学術協定に基づく共同事業としてパリで国際シンポジウムを開催した。(現代中東地域研究国立民族学博物館拠点・EHESS・IISMM 共催)

国際ワークショップ “Global Flow of Cultural Knowledge and Its Afterlives: Between Japan and the Middle East” (2016年12月17・18日、於：国立民族学博物館開催)

グローバルな知識の環流という観点から現代中東世界と日本との文化的関係について検討する国際ワークショップを東京外国語大学 AA 研拠点と共同で開催した。日本において中東地域研究を実施していく上で不可欠な相互の関係性の理解という新たな研究テーマに取り組んだという研究上の意義がある。また中東地域研究として十分に研究協力が進んでこなかったイスラエルを対象とした研究、またイスラエル国内の研究者とも協力したという研究体制上の意義もある。(現代中東地域研究国立民族学博物館拠点・東京外国語大学 AA 研拠点、科学研究費基盤研



国際ワークショップ “Global Flow of Cultural Knowledge and Its Afterlives: Between Japan and the Middle East”の様子



国際映像ワークショップ “Messages from Paradise”におけるダニエラ・スワロフスキー監督とサムリ・シルケ博士・監督助手



国際映像ワークショップ「Messages from Paradise」の広報ポスター

究 (A) 「アラブ世界の都市部中流層文化とアラビアンナイト——エジプト系伝承形成の謎を解く」共催)

国際ワークショップ “Resource Use and Material Culture of Egyptian Coastal Regions: Comparison of the Mediterranean Sea and the Red Sea” (2016年11月25日、於：国立民族学博物館開催)

現代中東地域研究秋田大学拠点と国立民族学博物館拠点の研究連携としての一環として共催の国際ワークショップを開催した。アラブ・イスラーム軍征服以降のエジプトのアレクサンドリアの水システムについての報告と紅海産黒サングの数珠としての利用に関する報告を例とした資源利用について歴史文化的な観点からの検討が行われた。(現代中東地域研究秋田大学拠点・国立民族学博物館拠点、国立民族学博物館の共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシアの沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」(代表・縄田浩志)、科学研究費基盤研究(C)「モルディブ諸島他の歴史的建造物調査——インド洋建築史の基盤形成」共催)

国際ワークショップ “Moments of Pleasure: Time, Ethics and Desire in Contemporary Egypt” (2017年3月8日、於：東京大学東洋文化研究所開催)

NIHU 現代中東地域研究内だけでなく、現代中東地域に関係した他資金による研究活動との連携を図るために、東京大学東洋文化研究所で科学研究費基盤研究 (A) 「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」と現代中東地域研究国立民族学博物館拠点との共催による国際ワークショップを開催した。同ワークショップでは、進歩的で将来的な発展性を前提とした人間観ではなく刹那的な人の好意に着目したエジプトのジェンダー問題をめぐる研究が報告された。(科学研究費基盤研究 (A) 「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」・現代中東地域研究国立民族学博物館拠点共催)

国際映像ワークショップ「Messages from Paradise」(2017年3月30日、於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所開催)

移住元と移住先相互の社会の間のインタラクションを交えた中東とヨーロッパの間の人の移動に関する三部作のドキュメンタリー映画 Messages from Paradise の映像ワークショップを東京外国語大学 AA 研拠点と共同で行った。エジプトとオーストリア間を扱った第 1 作、モロッコとオランダ間を扱った第 2 作を上映し、ダニエラ・スワロフスキー監督とサムリ・シルケ監督助手による作品の解説とともに、映像を通じたヨーロッパにおける中東移民をめぐるディスカッションが行われた。(現代中東地域研究東京外国語大学 AA 研拠点・国立民族学博物館拠点共催)



第1回現代中東地域研究みんなくレクチャーシリーズで講演を行うヴェルナー教授



第2回現代中東地域研究みんなくレクチャーシリーズで講演を行う門井博士



第3回現代中東地域研究みんなくレクチャーシリーズで講演を行うクレイル博士

現代中東地域研究・京都大学拠点第2班「イスラーム中道派研究班」研究会 「現代中東の地殻変動とその眺望：政治・社会・思想の動的な連関を考察する」 (2016年11月19日、於：京都大学吉田キャンパス)

京都大学拠点と連携しながら同拠点中道班の研究会を実施した。同研究会においては、「アラブの春」以降の中東地域におけるイスラーム政治勢力の台頭やシリア紛争をめぐるイランやイラクなど周辺国の関係についての報告が行われた。(京都大学イスラーム地域研究センター(KIAS)現代中東地域研究・京大拠点、科学研究費基盤研究(A)「グローバル化時代に対応する21世紀型イスラーム学の構築」共催)

3) データベース

博物館データベース

中東地域内外の博物館等における文化表象に関する動向調査ならびに関連データベース構築にむけて、パレスチナ、イラン、トルコ共和国、また仏語圏を中心に博物館の所在および収蔵物の内容、さらには Google Map を利用した位置情報などのデータ整理に着手した。本データベースの作成は、国内の研究者に対する情報発信であるだけでなく、観光業など中東地域関連した事業を展開する一般の企業、旅行者に対する情報発信という目的をもつ。本年度にはトルコ共和国内の博物館および(トルコ共和国においては野外博物館として扱われる)遺跡について基本情報の整理が完了した。次年度以降順次拠点ウェブサイト上での公開を目指す。

4) 教育活動と若手人材の育成

「世界のイスラームぱっく」の開発

中東地域の教育用プログラムとしてイスラーム世界の現代的な多様性をテーマとした教材開発「世界のイスラームぱっく」作成のための資料収集と資料情報の整理を行うとともに、大学の機能強化への貢献も目指した教育プログラムの開発の準備を行った。次年度にベースと交換可能なモジュールからなる運用パックを完成させるとともに、小中高等学校のみならず大学等高等教育機関における教育教材としての利用のための実験的講義を実施する。

レクチャー・シリーズの開催

拠点の研究成果目標を達成する上で必要不可欠な中東地域をめぐる最新の研究動向について、海外の第一線で活躍する中堅・若手研究者によるレクチャー・シリーズ(MINPAKU Lecture Series in Modern Middle East Studies)を2017年1月以降順次実施し、大学機関における教育へのフィードバックを期待しな



第4回現代中東地域研究みんぱくレクチャーシリーズで講演を行うヴァインリッヒ博士



第5回現代中東地域研究民博レクチャーシリーズで講演を行うシルケ博士



現代中東地域研究みんぱくレクチャーシリーズ広報用ポスター例

から日本国内の大学等研究機関に所属する研究者に対する教育活動を推進した。本年度には、ドイツからクリストフ・ヴェルナー教授（マールブルグ大学）、イネス・ヴァインリッヒ博士（前ハイデルベルク大学客員教授）、サムリ・シルケ博士（ベルリン現代東洋研究所）およびダニエラ・スワロフスキー監督、英国から門井由香博士（クウェート・サバーハコレクションなど）、スイスからエモン・クレイル博士（チューリッヒ大学）を招へいた。若手・中堅クラスの第一線で活躍する研究者を招へいすることで、将来的な発展性のある見込みのある協力体制についても意見交換をした。

2016 年度開催 現代中東地域研究みんぱくレクチャーシリーズ

第1回 2017年1月31日

題目 : Theatre, Dance, and Musical Performance: Bourgeois Entertainment Culture in Early 20th Century Iran

講師 : Christoph Werner (Philipps-Universität Marburg)

第2回 2017年2月14日

題目 : Arthur Upham Pope and the Development of Persian Art Studies in the Early 20th Century

講師 : Dr. Yuka Kadoi (Visiting Scholar, Al-Sabah Collection for Islamic Art, Kuwait)

第3回 2017年3月2日

題目 : The Riddles of Desire: Norms and Pleasures in Egypt

講師 : Dr. Aymon Kreil (Universität Zürich)

第4回 2017年3月14日

題目 : Islamic Chanting between Recitation and Rap: Observations from fieldwork in Syria and Lebanon

講師 : Dr. Ines Weinrich

第5回 2017年3月21日

第1部 映像上映

作品 : The Secret Capital (28 mins)

講師 : Samuli Shielke (Zentrum Moderner Orient)

コメンテーター : Daniela Swarovsky (filmmaker)

第2部

題目 The Power of God: Everyday and transcendence, ethics and aspiration, and the religious and secular in Egypt

講師 : Samuli Shielke (Zentrum Moderner Orient)



現代中東地域研究みんぱくレクチャーシリーズ広報用ポスター例



拠点ウェブサイト



拠点 Facebook ページ

アラビア語集中講座の協力

中東地域研究において必要不可欠な中東地域の言語習得を促進することを目的に、本年度においては中東地域において広範囲に使用されるとともにイスラームにおける宗教的共通言語として影響力の強いアラビア語力の強化のため平成 28 年 8 月 26 日～9 月 1 日にかけてアラビア語集中講座合宿を研究分担者である鷲見朗子と共同で企画し、実践的教育プログラムの開発のための養成プログラムを実施した。

5) 展示活動

平成 31 年度に開催予定の秋田大学拠点との共催による企画展示のために、国立民族学博物館ならびに東京大学博物館等が所蔵する中東民族資料の悉皆調査を開始した。また次年度以降に開催予定の中東を起源とするコーヒー文化に関する展示を企業関連の博物館で共同で実施するために資料整理を実施した。

6) 研究プロセスの可視化

国内外に向け研究活動と研究成果の情報発信を目的に拠点のウェブサイトを作成するとともに、Facebook を拠点のウェブサイトと連携して迅速な情報発信を進めてきた。また国際ワークショップやレクチャーシリーズの広報については、各テーマに合わせ学会のメーリングリストを利用して通知を行った。

7) その他

国立民族学博物館友の会に協力して、現代中東地域研究推進事業設置関連の講演会を大阪と東京で計 4 回実施した。また競争的外部資金として科学研究費の基盤研究（B）（特設分野）「中東地域における民衆文化の資源化と公共的コミュニケーション空間の再グローバル化」（代表・西尾哲夫）を獲得し研究の活性化を図るとともに、若手の研究分担者にも競争的外部資金の申請を促した。

2017 年 4 月 15 日作成